

TO BE!

東北文教大学で  
見つける、叶える。  
なりたい自分へ進行中。





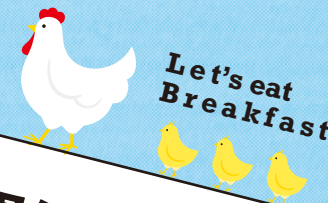
Good Morning

# 朝

# ごはんも

# 食べよう。

を開催しました!



東北文教大学では、本学食堂で朝食を学生に無料で提供する「朝ごはんを食べよう。」を2回にわたって開催。炊き立てのご飯と具沢山のお味噌汁、ふりかけや卵、納豆などが100食限定で振る舞われました。初の試みながら大盛況となった本イベント。企画や運営に携わった教員と学生に、当日の様子や手ごたえなどについて聞きました。



第1回  
2023  
11/29

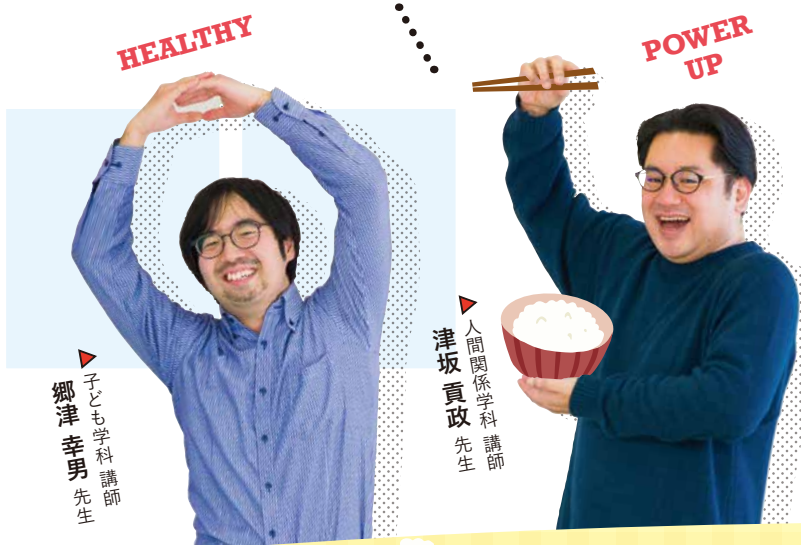


第2回  
2024  
1/23

4名の教員で企画・運営。料理上手な教職員も助っ人に!



### 学長補佐の教員



子ども学科講師  
郷津 幸男 先生

人間関係学科講師  
津坂 貢政 先生

### 学生スタッフ / ローターアクト部 & クッキング部



(ローターアクト部)

(クッキング部)

子ども教育学科 / 4年  
遠山 愛子 さん  
秋田県立横手高等学校 出身

子ども教育学科 / 4年  
内海 彩乃 さん  
東北文教大学山形城北高等学校 出身



あったかい朝ごはんに、おなかも心も大満足!



### VOICE

学生たちの一日を朝食で元気に! 今後は地域を巻き込んだ展開も

今回のイベントは、各学科から選出された学長補佐の教員が中心となって企画。米や野菜は、教職員が農家の実家などから調達し、味噌汁に入れた豆腐や油揚げは山形市の城南食品さんが訳あり商品を破格で提供してくださったもの。食品ロス削減に貢献しつつ、山形の食材を味わってもらうことにこだわり

ました。集客できるか心配でしたが、初回から100人以上の学生が集まってくれたことには驚きました。5升分炊いたお米も大鍋8杯分のお味噌汁もきれいになくなり、中にはごはんを5杯もおかわりした男子学生も。学生間・教職員間の交流が自然に生まれ、朝食の需要を再確認する貴重な機会となりました。

### VOICE

即興で作った白菜の漬物も大好評! 「おいしい」の声にこちらも笑顔に

クッキング部とローターアクト部から、学生スタッフとして調理に参加。自分が作った料理をこんなにたくさんの人に目の前で食べてもらうのは初めての経験でした。「おいしい!」「おかわりしてもいいですか?」と言ってもらえて、とても嬉しかったですね。早起きして頑張った甲斐があったと感じました。

普段は朝食を抜くことや、食べたとしても栄養バランスが不十分なことがあります。でも今回の朝ごはんは栄養満点。すごくおいしくて振る舞う側の私たちもおかわりしてしまいました(笑)。次回は焼き鮭をのせた本格的なお茶漬けを出したり、洋食のメニューを取り入れたりしても面白そうです。



# 東北文教大生は どんなアルバイトしてる？



毎月の生活費のためだったり、社会経験を積むためだったり、  
大学生がアルバイトをする理由はさまざま。  
いろんな仕事をしてみれば、自分のやりたいことが見つかるかも！  
今回は学生たちのアルバイトの実態を探ってみました！

## MY ARUBAITO is HAMBURGER SHOP ハンバーガーチェーン店

お客さまが笑顔になると  
自分も元気がもらえる！



短期大学部  
現代福祉学科/2年  
西谷 優奈さん  
東北文教大学山形城北高等学校 出身

ハンバーガーチェーン店で接客や調理を担当。お客様に提供するまでのスピードが求められるのでいつも時間との闘いです。お子さんにおまけのおもちゃを渡して喜んでもらえたときや、クルー同士の何気ない会話の時間が楽しいです！アルバイトを経験して言葉遣いを学び、ハキハキと話せるように。4月からは介護施設に就職。介護福祉士の資格取得のため国家試験の勉強に励んでいます。



## MY ARUBAITO is AFTER SCHOOL CENTER 学童

子どもと触れ合う  
時間が楽しい！



人間科学部 人間関係学科/2年  
柿崎 正宗さん  
秋田県立横手高等学校 出身

1年生のときに学童でアルバイトをしていました。子どもたちは学童で宿題をしたり、おやつを食べたり、体育館でボール遊びをしたりするので、それらのサポートをしていました。もともと子どもと接するのが好きで、子どもたちと遊ぶ時間が本当に楽しかったです！今は福祉分野のレポートを進めながら、自治会の会計業務を頑張っています。



## MY ARUBAITO is GRAM SCHOOL SUPERMARKET 塾・スーパー

相手をよく見て行動する力が  
身に付いた！



人間科学部 人間関係学科/3年  
小嶋 百咲さん  
山形県立山形西高等学校 出身

塾で丸付けのアルバイトをしています。子どもたちの勉強を見るときは分かりやすいようかみかみ教えていることを心がけています。塾と掛け持ちのスーパーのレジ打ちではお客さまの様子を見て対応したり、袋詰めのことを考えて商品をカゴに重ねたり。どちらのアルバイトでも相手のことを考え、伝える力が身に付きました。現在は就職活動中。インターンシップや面接練習に全力で取り組んでいます。



## MY ARUBAITO is PHOTO STUDIO 写真館

子どもたちが喜ぶ姿を  
一番近くで見られる！



人間科学部 子ども教育学科/4年  
小幡 颯希さん  
山形県立米沢東高等学校 出身

自分が七五三の写真を撮ってもらった写真館で、子どもに関わる仕事がしたいと思ったのがきっかけ。子どものヘアセットやメイクができるのが楽しいですし、笑顔を引き出せたときは良かったなど感じます！お客さまのやりとりを通して、人見知りを克服することもできました。春からは一般企業に就職。4年間の学びを復習しながら、友達とたくさん思い出を作りたいです。



## MY ARUBAITO is SUSHI DELIVERY

寿司のデリバリー

毎回違う景色に出会い  
新しい発見がある！



人間科学部 子ども教育学科/4年  
増川 大晟さん  
山形県立寒河江高等学校 出身

週3~4日、寿司屋でデリバリースタッフをしています。ナビアプリを駆使して個人宅に配達するのですが、毎回、新しい景色に出会うのが新鮮で、発見があるのが楽しいです。始めの頃はトラブルに焦ることもありました。今は臨機応変に対応できるように。4月からは小学校教員として働きます。「自分で考え物事を選択できる子ども」を育てていきたいです。



## MY ARUBAITO is PHOTO STUDIO 写真館

大切な記念日の写真  
たくさんの人を笑顔にしたい



短期大学部 子ども学科/2年  
後藤 結衣さん  
山形県立上山明新館高等学校 出身

写真館で撮影アシスタント、撮影写真の販売、子どもの着付けやヘアメイクを担当。撮影時、子どもと触れ合うときには、授業で学んだことを生かしています。子どもが笑顔を見せてくれたり、「ありがとう」と言ってくれたりすることが何よりも嬉しいです。卒業後は保育士として子どもや保護者と良い関係を築けるよう、コミュニケーション力を高めていきたいです。



## MY ARUBAITO is CHAIN STORE

牛丼チェーン店

地元の新庄市で  
高校生の頃から続けています



短期大学部 現代福祉学科/2年  
中島 華那さん  
山形県立新庄南高等学校 出身

新庄市の牛丼チェーン店で、店内やドライブスルーの接客をしています。幅広い年齢層のお客様やスタッフと関わるので、敬語の使い方や先輩への指導の仕方など言葉遣いが丁寧になり、周りの様子を見て動けるようになりました。お客様の車で見かけるかわいいペットたちが、疲れたときの癒しです！現在は介護福祉士の国家試験に向けて、ひたすら過去問を解いて猛勉強中です。

## MY ARUBAITO is CAFE & CLOTHING STORE カフェ&古着屋

料理も服も好き！  
それに携われる  
のがうれしい



短期大学部  
子ども学科/2年  
山本 輝音さん  
山形県立天童高等学校 出身

カフェ&古着屋のお店で働いています。カフェでは接客や調理、メニュー開発も。コーヒーの焙煎やラテアートの腕を磨く日々です。自分でアパレルブランドを持つほど服も好きで、古着屋では接客や品出しをしています。学修面では、卒業研究で現代の幼児教育における英語教育のあり方を研究中。子どもの良さや可能性を引き出せる保育士を目指しています。







篠永洋

子ども教育学科 准教授  
SHINONAGA HIROSHI

五感を刺激する造形体験から  
子どもは自分なりの  
意味や価値を見出していく

教員プロフィール / 東北文教大学人間科学部 子ども教育学科 准教授。和光大学人文学部 芸術学科卒業、西九州大学大学院 生活支援科学研究科子ども学専攻 修士課程修了。担当する授業は「幼児と造形表現」「図画工作」等。付属幼稚園の課外活動の造形教室や小学生を対象にした造形教室「とぶらぼ」での指導のほか、付属幼稚園のHP公開動画制作も担当している。

子どもがひたすら楽しめる  
“場”を作る

**名和** / 先生が実施されている、付属幼稚園の課外活動の造形教室や小学生を対象にした造形教室「とぶらぼ」について教えてください。

**篠永** / 幼稚園の造形教室では園児に大学に来てもらって活動しています。完成形に向かって作るのではなく、材料などをあらかじめ部屋に準備しておいて、子どもが見た瞬間に「何これ?何これ?」と挑みかかっていくような“場”を作ることが心をかけています。部屋を薄暗くしてLEDの懐中電灯でラバーライトのようなものを作って遊んだり、画用紙を短冊状に切って、それをホッチキスで留めながら屋外までどんどん伸ばしてみたり。単に作って出来上がりというのではなく、あくまでもその活動をひたすら楽しめる状態にセッティングすることを一番大事にしています。「とぶらぼ」もコンセプトは同様で、子どもたちに一心に手を動かしてもらった時間に。今年はマスキングテ

ペを大学の床や壁、鏡、ガラスなどに貼りまくる活動を大学のオープンキャンパスの時間帯に合わせてやりましたね。

子どもの頃の情熱を  
一生続くものに

**名和** / 子どもが造形体験をすることで育まれる力とは。

**篠永** / 例えば、お菓子の箱や牛乳パックを使って物を作ろうとすると、それらはそれぞれ見た目も違うし、硬さや触り心地も違う、お菓子や牛乳の匂いが残っていたりもする。自分の五感を働かせているそのノイズな状態が、さまざまな感覚の発達につながっていくと思います。さらに、素材についても「これとこれはくっつくけど、これだとくっつかない」。そうした経験から物の仕組みを理解して、自分なりの意味や価値ができる土台になっていく。子どもの頃に夢中になってやっていた情熱は一生続いていくものであったりしますし、そうあってほしい。自分の五感を通して自分自身にとっての意味と価

値がしっかりと育まれていくのだと感じます。子どもが作るものは大人から見れば「雑」に見えます。ですが、子どもにとってはそれが精一杯。雑に作れば作るほど壊れていくけれども、壊れたものを修理することでだんだん丈夫になっていたり、魔改造されていったり。それが実は子どもにとって一番重要なことで、幼児の造形とはそうあるべきだと思います。**名和** / 学生にはどんなことを意識して学んでほしいですか。  
**篠永** / 大学生活では思いっきり遊んでほしいです。“遊び”とはブレーキの遊びのような余白や隙間を意味していて、遊びがないと急ブレーキになってしまうので、ちょっとした遊びがあることがとても重要。自分の中に遊び心をもって大学生活を送ってもらいたいですね。



NOTICE BOARD

REPORT 幼稚園でデジタル教育の出前授業をしました



子ども教育学科の眞壁豊准教授が、2023年11月16日(木)と17日(金)の両日、福島県西白河郡 学校法人西郷幼稚園の年長組(5歳児)の園児にデジタル教育を行いました。内容は、ニンテンドースイッチを使用して「きらきら星」のフレーズを入力するというものです。コントローラを使って初めに音符を、次にドラムパートとベースを入力しました。内蔵されている「シンセサイザー/ドラムマシンガジェット」を使用して「自由にリズムを配置してみよう」というテーマに、園児は指導を受けつつ思い思いに入力し、最後に成果発表会を行いました。

REPORT 学生と県議会議員との意見交換会が行われました



2023年11月10日(金)、「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」に本学人間科学部の学生14名が参加しました。この意見交換会は、県議会が選挙権年齢の引き下げをきっかけに、若い人たちに県議会を身近に感じてもらうために7年前から高校生・大学生などを対象に行っているものです。今回は県議会議員5名と本学の人間科学部人間関係学科の7名、子ども教育学科の7名がそれぞれ二つの班に分かれ、人間関係学科の学生は「魅力ある山形県にするには」について、子ども教育学科の学生は「保育・教育の現場における課題について」というテーマで、活発な意見交換を行いました。

REPORT 大盛況! 認知症café in 東北文教大学



認知症カフェ CAFÉ COMFORT(コンフォート)は、東北文教大学市民公開講座のひとつとして2023年10月に始まりました。認知症の方やそのご家族、医療や介護の専門職、地域の方などが集い本格的なドリップコーヒーを飲みながら、comfort(快適)に過ごせる交流の場を目指しています。2023年度は8回開催し、毎回たくさんの方にご参加いただきました。さらにテレビや新聞で取材されるなど、認知症に関する相談・交流する場の必要性を、改めて知ることができました。2024年度のCAFÉ COMFORTにもどうぞ期待ください!

NEWS 個人・団体での大学見学を 随時受付中



本学では、オープンキャンパス以外の日でも、個人・団体(学年やクラス単位でも可)での大学見学を随時受け付けています。見学の内容は学科説明・模擬授業・キャンパスツアー・学食体験など、ご希望に応じて実施いたします。10月~12月で、3つの中学校、3つの高等学校の皆さんが見学に来てくれました。また、「東北文教大学の雰囲気をもっと確かめたい」という受験生や保護者の皆さんも、ぜひ大学見学へお越しください。詳しくは入試広報センターまで、お気軽にご相談ください。  
【入試広報センター】  
TEL:023-688-2296/E-mail:GO@t-bunkyo.ac.jp



保育士を目指す娘と  
気持ちを共有できる  
仲間になれたら



母の話を知ると、保育士は大変さの中にもやりがいがあるように感じます。実習で使うおもちゃを家で手作りするときには母に相談することも。アイデアは自分で出しますが、ちょっとしたヒントや安全性のアドバイスをくれるのでとても頼りになる存在です。



星野 佳萌さん  
子ども学科1年  
(米沢中央高等学校出身)

成長した卒業生の姿が見られて感慨深いですし、そのお子さんが同じ夢を持って同じ学校に入学してくれたことから、卒業生が充実感のある2年間を送ってくれたのかなという喜びと、大学としてやってきたことが間違っていないなという嬉しさを感じます。



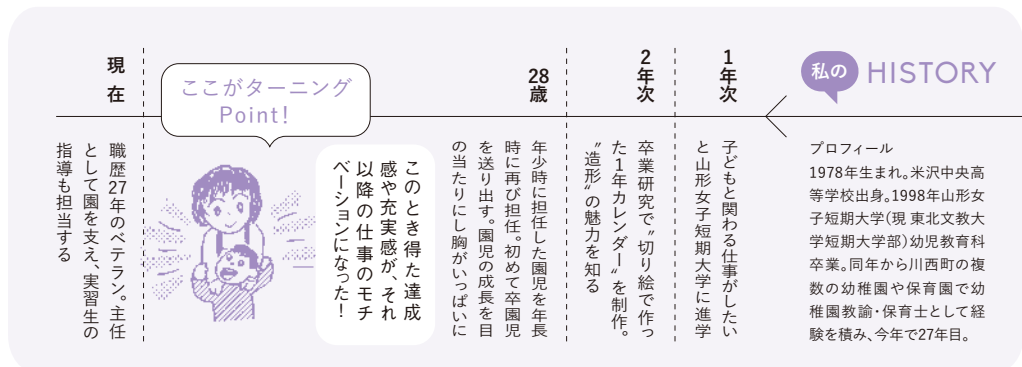
子ども学科  
佐東 治先生

幼い頃に出会った児童館の先生への憧れから子どもと関わる仕事に興味を持ち、短大に進学。現在は川西町の一般行政職(幼稚園教諭・保育士)として川西町立北斗幼稚園に勤務しています。これまでの経験の中で強く印象に残っているのは、初めて卒園児を送り出したとき。年少時に担任した子どもたちを年長時に再び担任したのですが、子どもたちが自分のことを自分ができるようになっていたり、年下の子を思いやれるようになっていたり、そうした成長の姿が見えたことが一番嬉しく、大きな達成感がありました。

短大時代に打ち込んだ卒業研究では「造形」を選択。切ったり貼ったりして「切り絵で1年間のカレンダー」を制作しました。画面全体を見て配置や構成を考え、変化や工夫をつけて作る面白さを教えてくださったのが、当時の造形の先生だった佐東治先生。初めてハサミやのりを使う3歳児に教える際にも短大のときの経験が生きていると感じます。

3歳児の担任としての喜びは、その子の「できた!」に立ち会えること。子どもが社会性を身に付け「自己発揮」できるように適切な援助や声掛けを行っていきたいですね。それから、私と同じ保育士を目指す娘とは保育士としての楽しさや大変さを語り合い、共有し合える、そんな仲間になれたらいいですね。

HOSHINO MAKI  
星野 真紀さん  
川西町立北斗幼稚園



TOBE! 広報誌タイトル「To Be!」の由来

To Beには「やがて~になる」の意味と「TOBE(飛べ)」という思いを込めました。東北文教大学は「なりたい自分」を見つけ、未来に向かって羽ばたいていく皆さんを応援していきます。